

人との出会いから得られるもの

東京弁護士会の法律事務職員研修・基礎講座の新人研修特別講座にグループリーダーとして参加した。

4年前に講義を受ける側で1度参加し、それ以降はグループリーダーとして参加している。一生懸命に質問してくる新人事務員と交流させてもらう度に、自分ももっと勉強しなければという気持ちにさせられる。新人時代の自分を振り返る事ができる数少ない機会として、今後も出来る限り参加したいと考えている。

法律事務所職員

深澤 亮

ただ学習するだけではもったいない

弁護士会の業務研修は先輩方の長年の努力の末に始まったものであり、ぜひ仕事に生かせるように学習して欲しい。また、この研修は他の事務所の方と交流できうる数少ない機会であるから、ただ学習するだけではもったいないと思う。

法律事務職員は基本的に横のつながりがなく、仕事の特殊性からも仕事の疑問点などを気軽に話せる相手が少ないと思う。事務所に弁護士がいない場合などは、不安になりながら仕事をしている人も数多いのではないか。

弁護士会の初級講座は事務所経費で参加しているから、精一杯学習することは必要だろう。ただ、学習以外にも仕事に生かせる事があり、それは人間関係を築くことだと考える。だから、休み時間や開始時間前に、ぜひ一緒に講義を受けている人に積極的に話しかけて欲しいと思う。

出会いは仕事に生きてくる

そこでの出会いは必ず仕事に生きてくると思う。同時期に法律事務所という特殊な環境で仕事を始めた友人は、仕事の悩みや疑問点を相談する最高の関係になるであろう。私は弁護士15人、事務員9名と比較的規模の大きい事務所で働いているので、仕事の悩みを相談しやすい環境にある。しかしながら、弁護士1名、事務員1名などの事務所の多いこの業界では、

気軽に仕事の悩みを相談できる相手のいる環境で仕事をしている人は少ないのではないかと。弁護士からは「分からない事があれば聞いてね」と言われていても、忙しそうに仕事をする弁護士には聞き難い部分もあると思う。そのような時に仕事を聞ける相手がいると心強さを感じるはずである。また、心理的余裕は仕事に好影響を与えらると思う。

自分を成長させる最高の機会

他の事務所の人と人間関係を形成できるとこれ以外にも良い点がある。それは仕事の手順などの情報交換ができることである。事務所ごとに違う仕事の回し方ややり方を、自分の事務所でも生かせる機会をつくる事ができるということである。1つの仕事に対するアプローチの仕方は1つではない。選択肢が複数あれば、どれが1番事務所（弁護士）に合っていて、かつ自分にも合っているかを考えて選んでも良いと思う。他の事務所の良い点は積極的に取り入れる事は事務所にも良い事だと考える。

もし交流の機会が他にもある事を知った際は、積極的に参加して欲しいと思う。優先されるべきは目の前の仕事かもしれない。しかしながら長期的視点にたって考えるならば、人間関係を形成できる機会を生かしていくことも、その後の自分や事務所には良いことである。人との出会いは仕事以外の面でも自分を成長させる事ができうる最高の機会だと考えるからである。